

環境活動レポート

第01号

(運用期間:2016年10月1日～2016年12月31日)



作成年月日:2017年 1月 16日

東海金属工業株式会社

目 次

1. 組織の概要	...	P 1
2. 環境方針	...	P 2
3. 実施体制	...	P 3
4. 環境目標	...	P 4～6
5. 環境活動計画	...	P 7～9
6. 環境目標の実績	...	P 10～12
7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	...	P 13～15
8. 当社の取り組み	...	P 16～20
9. 環境関連法規の遵守状況	...	P 21
10. 代表者による全体評価と見直し結果	...	P 22

【その他添付資料】

- ・環境上の緊急対策
- ・環境コミュニケーション受付表
- ・問題の是正及び予防処置（是正処置確認報告書）

1. 組織の概要

1. 事業所名及び代表者名

東海金属工業 株式会社

代表取締役社長 関本 芳英

2. 所在地

名 称	所 在 地	延床面積	備 考
本社工場(自動車部門)	静岡県駿東郡清水町柿田881	1382.04	今回の認証対象
三島工場(インサート部門)	静岡県三島市平成台14	2997.42	今回の認証対象
第2工場(自動車部門)	静岡県三島市平成台42	3619.15	今回の認証対象
松本工場(自動車部門)	静岡県三島市松本150-1	1330.96	今回の認証対象

3. 環境管理責任者、事務担当者の氏名及び連絡先

環境管理責任者 関本 俊文・山田 仁

事務担当者 関本 隆重

TEL 055-971-7700

E-mail soumu@tokai-mmc.co.jp

4. 事業活動

輸送機器部品(ドア・レギュレータ・シート)、工業用ファスナー、セルフピアシングリベット及びそれに伴う機械設備の製造販売

5. 事業規模

2016年5月31日現在

項 目	内 容
売上高	全社 303529 万円 2015年度
従業員数	全社 136名 (内訳: 本社 24名、三島工場 58名、第2工場 42名 松本工場 12名)

6. 事業年度

6月1日～翌年5月31日

7. 認証・登録の対象範囲

活 動: 全事業活動

対象組織: 全工場

2. 環境方針

東海金属工業株式会社 環境方針

[環境理念]

東海金属工業(株)は、自動車部品の加工および組立・製造と、インサートナットの製造・販売を通じ、自然豊かな地域環境を守るため、常に環境に配慮した事業活動に努め、地域環境の保持・改善と社会貢献を推進します。

[基本方針]

当社は環境理念に基づき、以下の基本方針を定め、継続的な環境経営を展開します。

1. 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量等の削減に努めます
 - ① 電気、軽油、ガソリン等の使用量削減に努めます
 - ② 廃棄物排出量の削減推進
 - ③ 水使用量の削減に努めます
2. 環境関連法規制等の遵守に努めます
3. 環境に配慮した製造活動
 - ① 環境に配慮した製品作りを推進します
 - ② 事務用品・作業服等のグリーン購入に努めます
4. 環境コミュニケーションの実施
 - ① ホームページに環境活動レポートを公開し、利害関係者のみならず社会とのより良いコミュニケーションを図ります
 - ② 社内においては、従業員に環境方針を周知し、全社員参画で取り組みます

制定年月日

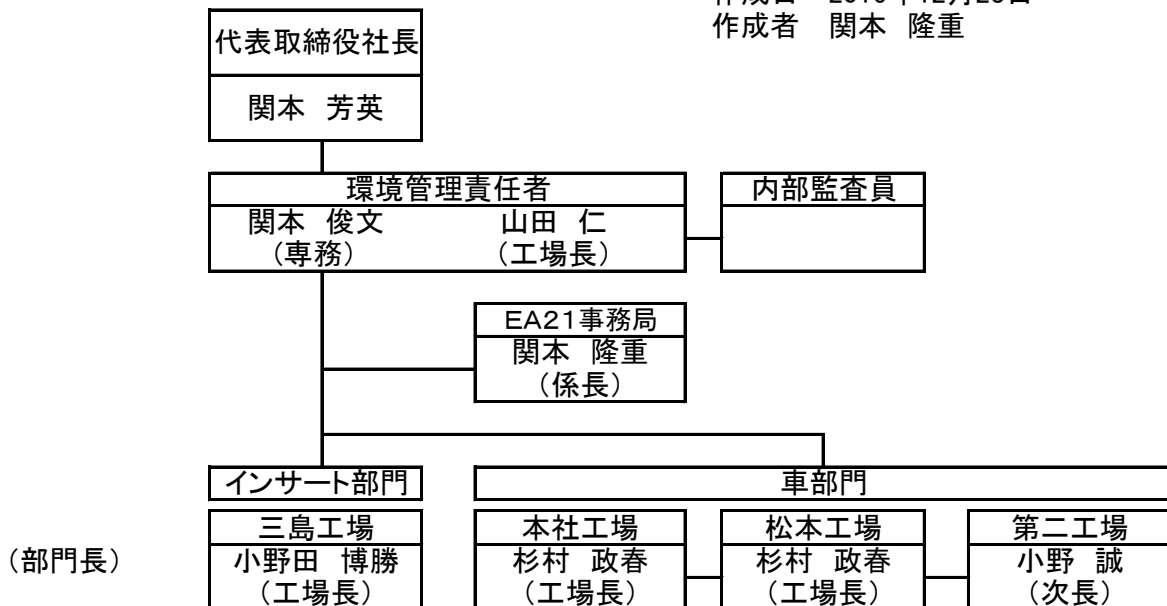
2016年10月1日

東海金属工業株式会社

代表取締役社長 関本 芳英

3. 実施体制

作成日 2016年12月23日
作成者 関本 隆重



<関係者の権限と役割>

社長

- ① 環境経営全般に関する責任と権限
- ② 環境経営に必要な資源の準備
- ③ 環境経営システム全体の評価と見直し
- ④ 環境管理責任者の任命

環境管理責任者

- ① 環境経営システム全般の推進
- ② 環境目標及び環境活動計画の立案・作成指示
- ③ 取組状況の社長への報告
- ④ 環境活動会議の実施

EA21事務局

- ① 環境負荷データ等の集計
- ② 環境目標・環境活動計画の原案作成・進行管理
- ③ 「環境負荷」及び「環境への取組」の自己チェックの実施
- ④ 環境管理責任者へ取組状況の報告
- ⑤ 法規制の遵守状況チェック
- ⑥ 文書・記録の管理
- ⑦ 環境管理責任者の補佐
- ⑧ 環境活動レポートの作成

部門長

- ① 部門の環境活動計画の実施
- ② 部門データの集計
- ③ 部門の問題点把握と是正対策の実施
- ④ 部門取組状況の事務局への報告
- ⑤ 部門の従業員教育・訓練の推奨

その他の従業員

- ① 自分の役割を守りエコアクション21活動を推進する
- ② 内部監査員は年1回以上の内部監査を実施する

4. 環境目標(全体)

運用期間(2016年10月～2016年12月)の環境目標

項目		単位	基準期間	運用期間	
			2015年10月～2015年12月	2016年10月～2016年12月	
			基準値	削減率等	目標値
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	451,331	-1%	446,818
内訳	電力	kWh	656,984	-1%	650,414
	重油	L	13,528	-1%	13,393
	ガソリン	L	1,884	-1%	1,865.0
	軽油	L	1,351	-1%	1,338
	灯油	L	7,159	-1%	7,087
	都市ガス	Nm ³			
	プロパンガス(LPG)	m ³	29	-1%	28
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	22	-1%	22
	一般廃棄物	袋	521	-1%	516
水使用量		m ³	2,818	-1%	2,790
グリーン購入(事務用品)		点	-	購入促進	購入促進
化学物質使用量		L	2,900	-1%	2,871
環境に配慮した製品作り		件	0件	0件	0件

短期・中期の環境目標

環境目標は、2015年度を基準年とした基準年比で示す。

項目		単位	基準年度	削減率等(10月～翌年9月)		
			2015年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	1,805,326	-2%	-3%	-4%
内訳	電力	kWh	2,606,693	-2%	-3%	-4%
	重油	L	54,112	-2%	-3%	-4%
	ガソリン	L	7,883	-2%	-3%	-4%
	軽油	L	3,756	-2%	-3%	-4%
	灯油	L	25,723	-2%	-3%	-4%
	都市ガス	Nm ³				
	プロパンガス(LPG)	m ³	103	-2%	-3%	-4%
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	90	-2%	-3%	-4%
	一般廃棄物	袋	2,085	-2%	-3%	-4%
水使用量		m ³	10,965	-2%	-3%	-4%
グリーン購入(事務用品)		点	-	環境に配慮した部品等の購入 (購入時都度検討)		
化学物質使用量		L	11,600	適切な管理・使用		
環境に配慮した製品作り		件	0件	0件	0件	0件

<備考>

1. 環境に配慮した製品作りについては、ELV、RoHS、顧客グリーン調達基準外れゼロとする(インサート部門)

4-1. 環境目標(自動車部門)

運用期間(2016年10月～2016年12月)の環境目標

項目	単位	基準期間	運用期間	
		2015年10月～2015年12月	2016年10月～2016年12月	
		基準値	削減率等	目標値
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	145,173	－1%	143,721
内訳	電力	kWh	－1%	274,064
	ガソリン	L	－1%	1,586
	軽油	L	－1%	1,016
	灯油	L	－1%	1,698
	プロパンガス(LPG)	m ³	－1%	13
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	－1%	2
	一般廃棄物	袋	－1%	235
水使用量	m ³	952	－1%	942
グリーン購入(事務用品)	点	－	購入促進	購入促進

短期・中期の環境目標

環境目標は、2015年度を基準年とした基準年比で示す。

項目	単位	基準年度	削減率等		
		2015年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	580,692	－2%	－3%	－4%
内訳	電力	kWh	－2%	－3%	－4%
	ガソリン	L	－2%	－3%	－4%
	軽油	L	－2%	－3%	－4%
	灯油	L	－2%	－3%	－4%
	プロパンガス(LPG)	m ³	－2%	－3%	－4%
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	－2%	－3%	－4%
	一般廃棄物	袋	－2%	－3%	－4%
水使用量	m ³	3,502	－2%	－3%	－4%
グリーン購入(事務用品)	点	—	環境に配慮した部品等の購入 (購入時都度検討)		

4-2. 環境目標(インサート部門)

運用期間(2016年10月～2016年12月)の環境目標

項目		単位	基準期間	運用期間	
			2015年10月～2015年12月	2016年10月～2016年12月	
			基準値	削減率等	目標値
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	306,159	－1%	303,097
内訳	電力	kWh	380,152	－1%	376,350
	重油	L	13,528	－1%	13,393
	プロパンガス(LPG)	m ³	16	－1%	15
	灯油	L	5,444	－1%	5,389
	ガソリン	L	282	－1%	279
	軽油	L	325	－1%	322
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	20	－1%	20
	一般廃棄物	袋	284	－1%	281
水使用量		m ³	1,866	－1%	1,847
グリーン購入(事務用品)		点	－	購入促進	購入促進
化学物質使用量		—	2900	－1%	2871
環境に配慮した製品づくり		件	0件	0件	0件

<備考>

1. 「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、中部電力(2011年度)の「0.513kg-CO₂/kWh」を使用した。

短期・中期の環境目標

環境目標は、2015年度を基準年とした基準年比で示す。

項目		単位	基準年度	削減率等		
			2015年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	1,224,634	－2%	－3%	－4%
内訳	電力	kWh	1,520,606	－2%	－3%	－4%
	重油	L	54,112	－2%	－3%	－4%
	プロパンガス(LPG)	m ³	62	－2%	－3%	－4%
	灯油	L	21,775	－2%	－3%	－4%
	ガソリン	L	1,127	－2%	－3%	－4%
	軽油	L	1,302	－2%	－3%	－4%
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	81.0	－2%	－3%	－4%
	一般廃棄物	袋	1137	－2%	－3%	－4%
水使用量		m ³	7,463	－2%	－3%	－4%
グリーン購入(事務用品)		%	—	環境に配慮した部品、設備の購入 (購入時都度検討)		
化学物質使用量		g	11,600	適正な管理・使用		
環境に配慮した製品づくり		件	0件	0件	0件	0件

<備考>

1. 「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、中部電力(2011年度)の「0.513kg-CO₂/kWh」を使用した。
2. 「化学物質使用量」の数値目標の設定は困難なことから、定性的な目標とする。
3. 環境に配慮した製品作りについては、ELV、RoHS、顧客グリーン調達基準外れゼロとする(インサート部門)

5. 環境活動計画(全体)

各部門による

[自動車部門](#)

5-1参照

[インサート部門](#)

5-2参照

5-1. 環境活動計画(自動車部門)

実績：実施→青、未実施→赤で各月のセルを塗りつぶす。

(取組期間: 2016年10月～2016年12月)

環境活動項目		責任者			スケジュール		
		本社	第二	松本	10月	11月	12月
二酸化炭素の削減	運転管理	A 長時間停止時のアイドリング禁止	杉村	松本	大隅	→	→
		B 急発進・急加速の禁止	杉村	松本	大隅	→	→
		C 同方向の相乗り	中島	松本	大隅	→	→
		D					
	工場・事務所	A 空調フィルターの定期清掃(夏前、冬前 2回/年)	杉村	小野	土屋	→	→
		B 蛍光灯の節電 使用していない箇所の消灯	渡辺	小野	土屋	→	→
		C 製造工程の改善	渡辺	長野	木内	→	→
		D 設備未使用時の電源OFF(製造設備・OA機器)	渡辺	長野	木内	→	→
		E 3S活動の実施	渡辺	橘田	木内	→	→
		F					
水使用量の削減	A 節水対策の実施	渡辺	松本	土屋	→	→	→
	B						
廃棄物の削減	A コピー用紙の両面使用	川口	勝亦	坂井	→	→	→
	B						
リサイクルの推進	A 廃プラスチックのリサイクル率向上	中島	小野	大隅	→	→	→
	B						
グリーン購入	A グリーン購買 (ボールペン・ファイル・白板マーカー)	川口	勝亦	坂井	→	→	→
	B						
社会貢献	A 工場周辺清掃	杉村	山田	堤	→	→	→
	B						

5-2. 環境活動計画(インサート部門)

実績：実施→青、未実施→赤で各月のセルを塗りつぶす。
(取組期間：2016年10月～2016年12月)

環境活動項目			責任者	スケジュール		
				10月	11月	12月
二酸化炭素の削減	A	社用車の運転 急発進・急加速の禁止	堀口			
	B	蛍光灯の節電 使用していない箇所の消灯	田口/宮内			
	C	パソコンの節電 休日OFF	金崎/宮坂			
	D	エアコンの設定温度 冷房時 室温28℃ 湿度60%以下 暖房時 室温20℃	古田/金崎			
	E	3S活動の実施	小野田			
水使用量の削減	A	手洗い時の節水	田口/堀口/宮内			
	B	排水の再利用 冷却水_1次洗浄→完成洗浄	小野田			
廃棄物の削減	A	洗浄液の再利用 蒸留	小野田			
	B	廃棄用紙の再利用・分別	金崎/古田			
	C	不良品の削減(不良率3%以下)	大村			
リサイクルの推進	A	超硬品の分別	田口/堀口			
	B	廃棄物の分別	田口/堀口/宮内			
	C	グリーン購買 (ボールペン・ファイル・白板マーカー)	金崎			
化学物質	A	使用化学物質のMSDS入手	宮坂			
その他	A	工場見学会検討(社会貢献)	小野田			
	B	工場周辺清掃(月第一月曜)	小野田			
	C	環境に配慮した製品作りについては、ELV、RoHS、顧客グリーン調達基準外れゼロとする	大村			

6. 環境目標の実績

運用期間(2016年10月～2016年12月)の環境目標の実績

前年同期実績をベースに、運用期間(2016年10月～2016年12月)の実績・評価を以下に示す。

項目		単位	基準期間	運用期間				
			2015年10月 ～ 2015年12月	2016年10月～2016年12月				
			基準値	削減率等	目標値	実績値	削減比率	評価
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	451,331	－１％	446818	481,736	7.8%	×
内訳	電力	kWh	656,984	－１％	650414	705,404	8.5%	×
	重油	L	13,528.0	－１％	13392.7	17,148	28.0%	×
	ガソリン	L	1,883.9	－１％	1865.0	1,364	－26.9%	○
	軽油	L	1,351.4	－１％	1337.9	1,355	1.3%	×
	灯油	L	7,158.8	－１％	7087.2	6,216	－12.3%	○
	都市ガス	Nm3	—					
	プロパンガス(LPG)	m3	28.6	－１％	28.3	21	－25.8%	○
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	22.3	－１％	22.1	19	－15.8%	○
	一般廃棄物	袋	521	－１％	516.1	413	－20.0%	○
水使用量		m ³	2817.8	－１％	2789.6	2,246	－19.5%	○
グリーン購入（事務用品）		点	—		購入促進	購入促進		○
化学物質使用量		L	2,900	－１％	2871	0	－100.0%	○
環境に配慮した製品づくり		件	0件	0件	0件	0件	0件	○

＜備考＞削減比率は、目標値に対する削減量の割合である。

＜原因分析・是正処理＞

電力	原因分析	製品の製造が前年比14.6%増えており、ともない使用電力も増加している
	是正処置	蛍光灯、パソコン節電の継続。エアコンの節電強化。不良品の削減を強化する。
重油	原因分析	従来切削油はPRTR法に該当する化学物質を使用していた。これを対象外の切削油にかえたことで重油の使用が増加した。
	是正処置	対象外の使用により重油の使用量の現状把握を行った後、削減活動(持ち出し飛散対策など)を展開する。
軽油	原因分析	POPIによりエコ運転は実施されているが、製品の製造量増加に伴い客先訪問等の機会が増加した為、軽油使用量も増加した。
	是正処置	客先訪問等は必要である、eco運転は実施されていると判断している為、現状維持する。

6-1. 環境目標の実績(自動車部門)

運用期間(2016年10月～2016年12月)の環境目標の実績

前年同期実績をベースに、運用期間(2016年10月～2016年12月)の実績・評価を以下に示す。

項目	単位	基準期間	運用期間				
		2015年10月 ～ 2015年12月	2016年10月～2016年12月				
		基準値	削減率等	目標値	実績値	削減比率	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	145,173	－1%	143721	164,447	14.4%	×
内訳	電力	kWh	－1%	274064	283,944	3.6%	×
	ガソリン	L	－1%	1586	1077	－32.1%	○
	軽油	L	－1%	1016	955	－6.0%	○
	灯油	L	－1%	1698	1685	－0.8%	○
	プロパンガス(LPG)	m ³	－1%	13	6	－52.2%	○
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	－1%	2	3	51.5%	×
	一般廃棄物	袋	－1%	235	214	－8.8%	○
水使用量	m ³	952	－1%	942	498	－47.2%	○
グリーン購入（事務用品）	点	—		購入促進	購入促進		○

＜備考＞削減比率は、目標値に対する削減量の割合である。

＜原因分析・是正処理＞

電力	原因分析	新規部品の立ち上げ等より増産傾向になったため
	是正処置	蛍光灯、パソコン節電の継続。エアコンの節電強化。不良品の削減を強化する
産廃	原因分析	EA21活動により、2S強化したため
	是正処置	リサイクル活動の強化を図る

6-2. 環境目標の実績(インサート部門)

運用期間(2016年10月～2016年12月)の環境目標の実績

前年同期実績をベースに、運用期間(2016年10月～2016年12月)の実績・評価を以下に示す。

項目		単位	基準期間	運用期間				
			2015年10月 ～ 2015年12月	2016年10月～2016年12月				
			基準値	削減率等	目標値	実績値	削減比率	評価
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	306,159	－1%	303,097.0	317,289	4.7%	○
内訳	電力	kWh	380,152	－1%	376,350.0	421,460.0	12.0%	×
	重油	L	13,528	－1%	13,392.7	17,148.0	28.0%	×
	プロパンガス(LPG)	m ³	16	－1%	15.3	14.8	－3.6%	○
	灯油	L	5,444	－1%	5,389.3	4,531.0	－15.9%	○
	ガソリン	L	282	－1%	278.9	286.3	2.7%	×
	軽油	L	325	－1%	322.1	400.2	24.2%	×
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	20	－1%	20.0	16	－22.7%	○
	一般廃棄物	袋	284	－1%	281.4	199	－29.3%	○
水使用量		m ³	1,866	－1%	1,847	1,748	－5.4%	○
グリーン購入（事務用品）		—	—		購入促進	購入促進		○
化学物質使用量		—	2,900	－1%	2,871	0	－100.0%	○
環境に配慮した製品づくり		件	0件	0件	0件	0件	0件	○

製品製造数 万個 4,958 - - 5,680 14.6%

＜備考＞削減比率は、目標値に対する削減量の割合である。

＜原因分析・是正処理＞

電力	原因分析	製品の製造が前年比14.6%増えており、ともない使用電力も増加している
	是正処置	蛍光灯、パソコン節電の継続。エアコンの節電強化。不良品の削減を強化する。
重油	原因分析	従来切削油はPRTR法に抵触する化学物質を使用していた。これを対象外の切削油にかえたことで重油の使用が増加した。
	是正処置	対象外の使用により重油の使用量の現状把握を行った後、削減活動(持ち出し飛散対策など)を展開する。
ガソリン 軽油	原因分析	POPによりエコ運転は実施されているが、製品の製造量増加に伴い客先訪問等の機会が増加した為、ガソリン、軽油使用量も増加した。
	是正処置	客先訪問等は必要である、eco運転は実施されていると判断している為、現状維持する。

7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

各部門による

[自動車部門](#) 7-1参照

[インサート部門](#) 7-2参照

7-1. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容（自動車部門）

（取組期間：2016年10月～2016年12月）

環境活動項目		責任者			評価	コメント	今後（次年度） の取組内容
		本社	第二	松本			
二酸化炭素の削減	運転管理	A 長時間停止時のアイドリング禁止	杉村	松本	大隅	○	継続
		B 急発進・急加速の禁止	杉村	松本	大隅	○	
		C 同方向の相乗り	中島	松本	大隅	○	
		D				—	
	工場・事務所	A 空調フィルターの定期清掃（夏前、冬前 2回／年）	杉村	小野	土屋	○	継続
		B 蛍光灯の節電 使用していない箇所の消灯	渡辺	小野	土屋	○	
		C 製造工程の改善	渡辺	長野	木内	○	
		D 設備未使用時の電源OFF（製造設備・OA機器）	渡辺	長野	木内	○	
		E 3S活動の実施	渡辺	橘田	木内	○	
		F				—	
水使用量の削減	A 節水対策の実施	渡辺	松本	土屋	○	POP作成し朝礼等で周知した。意識が高まった。	継続
	B				—		
廃棄物の削減	A コピー用紙の両面使用	川口	勝亦	坂井	○	POP作成し朝礼等で周知、実施した。	継続
	B				—		
リサイクルの推進	A 廃プラスチックのリサイクル率向上	中島	小野	大隅	○	リサイクル業者を活用	継続
	B				—		
グリーン購入	A グリーン購入（ボールペン・ファイル・白板マーカー）	川口	勝亦	坂井	○	購入窓口を一本化しECO対象品を購入。	継続
	B				—		
社会貢献	A 工場周辺清掃	杉村	山田	堤	○	月一に工場周辺の道路を掃除している	継続
	B				—		

7-2. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容(インサート部門)

(取組期間:2016年10月～2016年12月)

環境活動項目		責任者	評価	コメント	今後の取組み
二酸化炭素の削減	A 社用車の運転 急発進・急加速の禁止	堀口	○	ECO運転POP作成し車内貼付、朝礼で呼びかけた。継続していきたい。	継続
	B 蛍光灯の節電 使用していない箇所の消灯	田口/宮内	○	未使用時のこまめな消灯を促すPOP作成し朝礼等で呼びかけた。継続していきたい。	継続
	C パソコンの節電 休日OFF	金崎/宮坂	○	POP作成し各PCに貼付。事務所はチェックシート作成し消灯確認。継続していく。	継続
	D エアコンの設定温度 冷房時 室温28℃ 湿度60% 暖房時 室温20℃	古田/金崎	○	POP作成、朝礼呼びかけ。温度計設置。冷房はいいが暖房が今ひとつ守られていない。	継続
	E 3S活動の実施	小野田	○	組織改編し活動継続中。	継続
水使用量の削減	A 手洗い時の節水	田口/堀口/宮内	○	POP作成、朝礼呼びかけ。みんなこまめに止めてくれるようになったと思う。	継続
	B 排水の再利用 冷却水_1次洗浄→完成洗浄	小野田	○	蒸留機の温水を完成洗浄に再利用。	継続
廃棄物の削減	A 洗浄液の再利用 蒸留	小野田	○	蒸留機を設置し洗浄液を蒸留再利用。	継続
	B 廃棄用紙の再利用・分別	金崎/古田	○	POP作成、雑紙の分別ルール取り決め、回収箱設置。みんな守ってくれている。	継続
	C 不良品の削減(不良率3%以下)	大村	○	1回/月、1回/日で状況をまとめ関係者に配布呼びかけ。10～12月の不良率2.23%。	継続
リサイクルの推進	A 超硬品の分別	田口/堀口	○	再利用品と処分品を分けて回収。	継続
	B 廃棄物の分別	田口/堀口/宮内	○	廃棄物の分別ルールを取り決めPOP貼付	継続
	D グリーン購買 (ボールペン・ファイル・白板マーカー)	金崎	○	購入窓口を一本化しECO対象品を購入。	継続
化学物質	A 使用化学物質のMSDS入手	宮坂	○	すべてにおいてMSDSを入手保管。またPRTR法に該当しない物質への切替実施中。	継続
その他	A 工場見学会検討(社会貢献)	小野田	○		継続
	B 工場周辺清掃(月第一月曜)	小野田	○	第一月曜に工場周辺の道路掃除実施中。	継続
	C 環境に配慮した製品作りについては、ELV、RoHS、顧客グリーン調達基準外れゼロとする	大村	○	全製造物において顧客要求事項に適合した材料使用。	継続

8. 当社の取組み

各部門による

[自動車部門](#)

8-1参照

[インサート部門](#)

8-2参照

8-1. 当社の取組み(自動車部門)

◆社内注意書きで社員の意識づけ◆



◆紙類の分別とリサイクルで処理時のCO2削減◆



◆社会貢献活動◆



工場周辺の清掃

8-1. 当社の取組み(自動車部門)

◆エアコンフィルター清掃でCO2削減◆



◆コピー用紙の両面使用でCO2削減◆

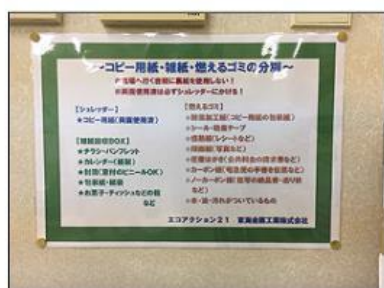


8-2. 当社の取組み(インサート部門)

◆社内注意書きで社員の意識づけ◆



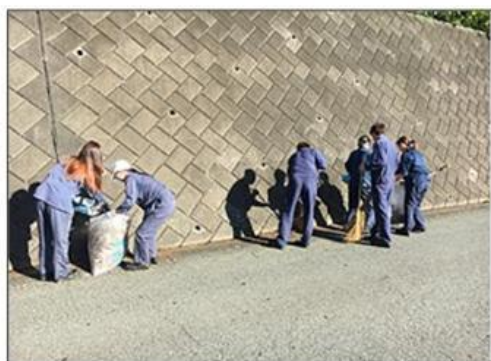
◆ごみの分別で処理時のCO2削減◆



8-2. 当社の取組み(インサート部門)

◆地域との融合活動◆

近隣清掃 16/10/12



9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規等

評価日 2016年12月23日

評価者: 関本 隆重

記号○=適用 記号-=非適用 青=適合 赤=未実施

法律/条例			条項	遵守事項または規制基準	適用及び対応	本社	三島	第二	松本
義務	法令/条例	騒音規制法 岡山生活環境の保全等に関する条例	第5条/52条	規制基準値の遵守	騒音の測定(市及び自主検査)	○	○	○	○
			第6条/53条	特定施設の届出、代表者変更届出	空気圧縮機(4KW以上)、その他機械加工設備	○	○	○	○
			第8条/55条	特定施設の数等の変更の届出	設置数が2倍以上、	○	○	○	○
		振動規制法 県生活環境の保全等に関する条例	第5条/79条	規制基準値の遵守		○	○	○	○
			第6条/80条	特定施設の届出、代表者変更届出	油圧プレス、	○	○	○	○
			第8条/82条	特定施設の変更等の届出	設置数が2倍以上、	○	○	○	○
		浄化槽法	第10条	浄化槽の保守点検及び清掃に実施	保守点検及び定期清掃の実施	-	-	-	○
			第11条	指定検査機関による水質に関する検査の実施	法定検査の実施(1回/年)	-	-	-	○
		廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)	第6条の2第6項	一般廃棄物の収集運搬業者への委託処理	市条例の収集・処理基準の遵守	○	○	○	○
			第12条第2項	産業廃棄物の適正保管	保管基準の遵守、保管場所の表示	○	○	○	○
			第12条第5項	産業廃棄物の委託処理	収集運搬及び処分許可業者への委託	○	○	○	○
			第12条第6項	運搬又は処分を委託する場合の処理基準の遵守	処理業者と契約契約書の締結	○	○	○	○
			第12条の3第1項	マニフェストの交付		○	○	○	○
			第12条の3第2項	マニフェストの保管	A票、5年間保管	○	○	○	○
			第12条の3第6項	マニフェストの保管	B2、D、E票の5年間保管	○	○	○	○
			第12条の3第7項	マニフェスト交付状況の知事報告	6/30までに報告書提出	○	○	○	○
			第12条の3第8項	管理票写しの送付がない時の適切な措置の実施	運搬又は処分業者からのD,E票の期間内返却	○	○	○	○
		静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	第82条	産業廃棄物管理責任者の設置		○	○	○	○
			第10条	委託先の実地確認と記録の保存	現地確認記録の保管	○	○	○	○
		消防法	第17条の3	消防用設備等の点検及び報告	消火設備の定期点検	○	○	○	○
			第8条	防火管理者の選任・届出	特定50名以上、防火対象物(500m2)	○	○	○	○
		家電リサイクル法(特定家庭用機器再商品化法)	第6条	特定家庭用機器廃棄物の収集・運搬をする者等への適切な引き渡し、料金の支払	指定家電廃棄時のサイクル料金の支払	○	○	○	○
		自動車リサイクル法(使用済自動車の再資源化等に関する法律)	第8条	使用済自動車の引渡義務		○	○	○	○
			第73条	使用済自動車の引き取り業者への引き渡し	リサイクル料金の支払(廃車時)	○	○	○	○
		フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	第41条	第1種特定製品廃棄等実施者の引渡義務	製品管理者のフロン類回収業者へのフロン類の引き渡し義務 簡易点検の実施(3ヶ月に1度)	○	○	○	○
	その他	顧客グリーン調達基準		顧客グリーン調達基準の使用及び適合製品の納入		○	○	○	○
責務・努力	法令	環境基本法	第8条	自主努力義務、行政への協力	EA21の取組	○	○	○	○
		地球温暖化対策推進法	第5条	自主努力義務、行政への協力	EA21の取組	○	○	○	○
		循環型社会形成推進基本法	第11条	廃棄物の3R及び適正処理の推進	廃棄物の分別、行政への協力	○	○	○	○
		リサイクル法(資源の有効な利用の促進に関する法律)	第4条	指定再資源化製品のリサイクルへの協力(適正廃棄)	パソコン、小型二次電池等の廃棄時	○	○	○	○
		グリーン購入法(国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律)	第5条	事業者の責務(国等の施策への協力等)	物品の購入、借り受け等する場合の環境物品等の選択	○	○	○	○

2. 違反、訴訟等の有無

当社に対し関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

2016 年 10 月の運用開始から 3 ケ月間の取組について、期間中の環境目標の達成状況及び、環境活動計画の実施状況等について評価した。

全体評価として、ガソリン・灯油・プロパンガス・産業廃棄物排出量・水使用量に於いては、目標達成することが出来た。電力・重油・軽油の 3 項目は、目標未達成となるが、全体的には良い結果となった。

3 ケ月という短期間での結果であり、評価は限定的なものとなる。今回始めた活動内容に関し継続的に実施し、年間評価にて取組と目標の妥当性を評価検討し見直しを行うこととする。

今回目標未達成の 3 項目に関しては早急に改善措置を講じるよう指示した。

取組を推進するに当たり、従業員の意識改革と積極性が重要となり、社員教育を含めた、コミュニケーションの充実を図ることが大切である。

以上を踏まえ、環境管理責任者に対し、朝礼や職場会議等を活用し、社員全員への周知徹底を図るよう指示した。

エコアクション 21 の取組が、企業経営者のみならず全従業員にとっても、有意義な活動となることを期待する。

2017 年 2 月 4 日

東海金属工業株式会社

代表取締役社長 関本 芳英

環境上の緊急対策

〈緊急時対策〉

作成日:

作成者:

想定される環境に於ける緊急事態について、環境への影響を最小限に食い止めること・内外への連絡を円滑に行うこと・可能な範囲で事前に想定、準備すること。また、定期的にその訓練を行う。更に、緊急事態の発生や、訓練の後、対応の評価と改善策を行う。

想定のパターン	想定される緊急事態	原因	対応策

訓練記録

訓練日	想定される緊急時の状況	原因	対処・訓練等
参加者			
※評価と改善策			

訓練日	想定される緊急時の状況	原因	対処・訓練等
参加者			
※評価と改善策			

環境コミュニケーション受付表

作成・管理担当：

NO.	情報入手日	情報種類	通報者	通報方法	住所	内容	回答の 必要性	対応内容
					連絡先			
1	／	対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要・不要	
2	／	対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要・不要	
3	／	対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要・不要	
4	／	対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要・不要	
5	／	対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要・不要	
6	／	対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要・不要	
7	／	対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要・不要	
8	／	対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要・不要	

作成者:

発生日	年 月 日
<問題点> (何が?～どうなっている!～) C/	
<原因> (なぜ?～) A/	

<是正計画> (何を?～誰が?～何時までに?～どうする～) P/D/

＜結果確認＞（どの様に改善された～問題点は解決したか？～ C/A/P/（予防処置は	

確認者